

思考コードで入試問題を徹底解剖！

(学校が求める思考力が見えてくる)

2019年度 麻布(国語)

思考コードの割合比較

			2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年
変換操作	全体関係	変容 3	A3 5%	5%	B3 18%	11%	C3	
複雑操作	カテゴライズ	複雑 2	A2 16%	16%	B2 29%	37%	C2	
手順操作	単純関係	単純 1	A1 24%	20%	B1 29%	11%	C1	
(数)	(言語)	合計	24%	41%	76%	59%		
			A 知識・理解思考		B 論理的思考		C 創造的思考	
			知識・理解		応用・論理		批判・創造	

*全設問数に対する割合を算出しています

昨年度と大きく変わったのは、基本的な知識の理解度をみる A2～A3 の出題数が増加した点です。ただし、これらはその後に続く問題を考えるための前提になっていると考えられるので、必ずしも問題が易しくなったことを意味していません。文章の細部にも気をつけながら、話の筋を理解していく読解力が求められます。

□ 小説文 A1～B3

父親の仕事の都合で引っ越すことになった主人公は、なかなか新しい生活になじめないままと住んでいた町の友人たちに会いに行きます。そこで経験したことを通じて人それぞれの家族への思いに気づき、自分の家族への思いも変わっていく様子を描いています。

問二(2)は、登場人物の言動から容易に解答できます。問四は、「帰る」という言葉に表れた主人公の意識を、その場面までの状況と関係づけて考えます。読解のカギとなる問題の一つです。問五は行動の意味を解釈する問題です。同級生への感情と行動との関係を読み解く複雑な思考が要求されています。問二から問六の思考コードは A2 から B2 ですが、後半の問題に強く影響するので、細部の読み取りにも気をつけましょう。問七から問十は、主人公がその日に経験したできごとを通じて考え方がどのように変わっていったかを読み解く部分です。思考コードは A2～B3 と幅が広いですが、一連の心理的变化を細かく問題にしているため、読み違えると他の問題にも影響してしまいます。書かれた内容から、主人公の心理が何をきっかけにどのように変化していくのかを注意深く読み取りましょう。問十一から十三は、主人公の心理がどのように変化したのかを説明する問題です。家族のあり方を見つめ直す問十一、家族の主人公に対する思いを読み取る問十二が、主人公の心理にどのような変化を与えていったのかを説明する問十三へとつながっています。

主人公がその日に知るようになったさまざまな「家族」のすがた、その「家族」への思いを通じて主人公が今住む町でのこれからの暮らし方を読み解き、適切な言葉を用いて説明していきます。文章全体

の筋を理解し、論理的に説明する必要があるため、広範囲で深い思考が求められます。